



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月1日

上場会社名 株式会社デジタルハーツ 上場取引所 東
コード番号 3620 URL <http://www.digitalhearts.co.jp>
代表者 (役職名)代表取締役社長 CEO (氏名)宮澤 栄一
問合せ先責任者 (役職名)執行役員 財務経理本部長 (氏名)風間 啓哉 (TEL)03(3379)2053
四半期報告書提出予定日 平成25年2月12日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	4,931	18.2	703	△7.1	706	△3.6	392	2.2
24年3月期第3四半期	4,171	—	757	—	732	—	384	—

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 407百万円(8.9%) 24年3月期第3四半期 374百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	33.83	32.88
24年3月期第3四半期	33.17	32.19

- (注) 1. 当社は、平成24年7月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。また、平成24年10月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。
2. 平成24年3月期第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成24年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	4,475	2,581	57.0
24年3月期	3,159	2,266	71.0

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 2,551百万円 24年3月期 2,242百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	1,000.00	1,000.00
25年3月期	—	6.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	3.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

- (注) 1. 当社は、平成24年7月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。
2. 平成24年10月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、平成25年3月期(予想)の期末配当については当該株式分割の影響を考慮して記載しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の年間配当金は12円00銭(第2四半期末6円00銭、期末6円00銭)となります。

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,922	28.5	1,088	30.5	1,092	35.4	596	35.4	51.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は、平成24年7月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。また、平成24年10月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、1株当たり当期純利益金額については株式分割の影響を考慮して記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 2社(社名) 株式会社デジタルハーツ・ビジュアル、除外 1社(社名)
Aetas株式会社

(注) 詳細は、添付資料6ページ「当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期3Q	11,601,000株	24年3月期	11,596,200株
25年3月期3Q	—株	24年3月期	—株
25年3月期3Q	11,600,249株	24年3月期3Q	11,583,585株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 当社は、平成24年7月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。また、平成24年10月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)の5ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
- ・当社は、平成24年7月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。また、平成24年10月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、業績予想の1株当たり当期純利益金額については株式分割の影響を考慮して記載しております。
- ・四半期決算補足説明資料については、四半期決算短信開示後速やかにTDnet及び当社ホームページに掲載致します。

○添付資料の目次

1.	当四半期決算に関する定性的情報	2
	(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
	(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
	(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2.	サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
	(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
	(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
	(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3.	四半期連結財務諸表	7
	(1) 四半期連結貸借対照表	7
	(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
	四半期連結損益計算書	
	第3四半期連結累計期間	8
	四半期連結包括利益計算書	
	第3四半期連結累計期間	9
	(3) 継続企業の前提に関する注記	10
	(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
	(5) セグメント情報等	10
4.	(参考)四半期財務諸表(個別)	12
	(1) (参考)四半期貸借対照表(個別)	12
	(2) (参考)四半期損益計算書(個別)	
	第3四半期累計期間	13
5.	補足情報	14
	(1) 事業等のリスク	14
	(2) 生産、受注及び販売の状況	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要を背景に一部で緩やかな景気回復の兆しが見られたものの、欧州の債務問題や中国の成長鈍化に伴う世界的な景気の下振れ懸念等があり、先行きが不透明な状況で推移致しました。当社グループの関連市場であるソフトウェア、コンテンツ市場では、多様な消費者ニーズに対応するため、これまで以上に完成度の高いソフトウェア等をより低コストでスピーディに開発することが求められるようになりました。このため、メーカーや開発会社は人件費の削減に加え、高品質な製品の開発に経営資源を集中することを目的として、デバッグ工程をアウトソーシングする傾向にあり、この動きは引き続き拡大していくものと見込んでおります。

このような経営環境において、当社グループでは「Made in JapanからChecked by Japanへ」というスローガンのもと、国内外で増加傾向にある消費者の視点からのユーザーデバッグ需要と多様化する顧客ニーズに対応したサービス展開に注力して参りました。

その取り組みとして、デバッグ事業においては家庭用ゲーム及びソーシャルゲーム領域の既存顧客に対し、部署間の連携を図った営業活動を推進するとともに、ソーシャルゲーム向けデバッグ需要の拡大に伴い、平成24年12月には札幌及び韓国にLab. (ラボ)を増設し受注体制を強化するなど、高品質できめ細やかなサービスの提供に努めて参りました。

また、より付加価値の高いサービス提供の観点から、当社グループの高度な不具合検出能力の証左ともいえる新サービス「ソフトウェア不具合検証保証サービス」の提供を開始し、顧客企業に対してより一層の安心を提供することで、さらなる信頼の獲得に取り組んで参りました。

さらに、平成24年11月に公表致しました「Aetas株式会社の株式の取得（子会社化）に関するお知らせ」のとおり、日本最大級の総合ゲームサイト「4Gamer.net」を運営しているAetas株式会社の全株式を取得し子会社化致しました。これにより、同社のゲームユーザーに対する強力な情報配信力と、ゲームのコアユーザーを含む7,000名を超える登録テスターや70万件を超える当社のデバッグノウハウとを融合させることで、今後の当社グループの新たな事業展開の基盤を整備して参りました。

以上の結果、デバッグ事業の業績が堅調に推移し、当第3四半期連結累計期間の売上高は、4,931,423千円(前年同四半期比18.2%増)となりました。

一方で、事業拡大に備えた新規事業への積極的な投資を行った結果、営業利益は703,580千円(前年同四半期比7.1%減)、経常利益は706,076千円(前年同四半期比3.6%減)、四半期純利益は392,487千円(前年同四半期比2.2%増)となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間からAetas株式会社を連結の範囲に含めたことにより、報告セグメントを、従来の「デバッグ事業」に「メディア事業」を加えた2つに変更するとともに、報告セグメントに含まれない事業セグメントを「その他」として区分しております。

報告セグメントの概要については、添付資料10ページの「セグメント情報等」に記載のとおりであります。

また、セグメント別の状況につきましては、以下のとおりであります。

①デバッグ事業

(i) コンシューマゲームリレーション

日本国内のコンシューマゲーム市場におきましては、新型ハード「Wii UTM」が発売されたものの、市

場全体における販売タイトル数は減少し、当第3四半期連結累計期間のゲームソフトの販売市場は前年同四半期比95.7%(平成24年12月末時点、エンターブレイン調べ)となりました。

このような状況のもと、当社グループでは前連結会計年度に取引拡大を実現した大口顧客企業各社からの安定受注を図るとともに、オンラインゲームやアーケードゲーム等のリピート率の高い案件受注の獲得に向けた営業活動をより一層推進して参りました。

また、連結子会社のDIGITAL Hearts USA Inc.では、デバッグ人員の拡充及びセキュリティ環境の強化を目的として、オフィスを拡張移転するなど強固な受注体制を確立するとともに、積極的な営業活動にも注力致しました。

その結果、前年同四半期と比べ、商戦期が集中しないオンラインゲームやアーケードゲームの受注割合が増加し受注が安定的に推移したため、当第3四半期連結累計期間のコンシューマゲームリレーションの売上高は2,054,291千円(前年同四半期比5.9%減)となりました。

(ii) デジタルソリューションリレーション

モバイルコンテンツビジネスを取り巻く環境は、成長著しいソーシャルゲーム市場において引き続き開発が活発化するとともに、スマートフォンやタブレットをはじめとする個人所有端末の業務利用が一層進んでおります。

このような状況のもと、ソーシャルゲームの開発においては、競争激化により開発期間の短期化が進むとともに品質の向上が求められる傾向にあり、開発企業各社からのデバッグ工程のアウトソーシングが拡大したため、受注が好調に推移致しました。

また、従来からコンシューマゲーム分野で取引関係のある顧客企業各社が本格的にソーシャルゲーム領域に参入していることから、当社グループでは、コンシューマゲームリレーションで培った顧客基盤を活かした受注活動に注力し、既存顧客からのアウトソーシング比率の上昇に努め、プロジェクトごとの売上拡大を図って参りました。

さらに、スマートフォンやタブレットを社内システムと連携させて導入する企業が増加傾向にあるため、前連結会計年度より本格的に取り組んでいるビジネスアプリをはじめとしたシステム検証の実績を活かし、新規顧客の開拓にも注力して参りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間のデジタルソリューションリレーションの売上高は1,357,797千円(前年同四半期比59.7%増)と前年同四半期を大幅に上回りました。

(iii) アミューズメントリレーション

日本国内のパチンコ市場における遊技機メーカー各社では、新内規対応機の登場によりゲーム性を高める等の演出の多様化が進むとともに、パチスロ市場においても市場の拡大に伴い、新機種の開発が活発化致しました。

このような状況のもと、当社グループでは、開発の上流工程と連動した効率的なデバッグ体制の強化と、デバッグに関連するサービスの拡充を推進することにより、顧客ニーズを捉えたサービス提供に注力して参りました。

その結果、既存顧客からの受注が堅調に推移し、当第3四半期連結累計期間のアミューズメントリレーションの売上高は1,248,512千円(前年同四半期比10.8%増)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のデバッグ事業の売上高は4,660,601千円(前年同四半期比12.0%増)、営業利益は1,277,256千円(前年同四半期比1.3%増)となりました。

②メディア事業

平成24年11月にAetas株式会社を子会社化したことに伴い、日本最大級の総合ゲームサイト「4Gamer.net」の運営を通じたメディア事業を、当第3四半期連結累計期間より事業展開しております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は55,301千円、営業利益は18,387千円となりました。

③その他

当社グループでは、多様な収益源を確保することにより安定的かつ持続的な事業の成長を図るべく、新しいマーケットへの参入や既存事業のノウハウを活用した新規事業の開発に積極的に取り組んでおります。

ゲームの制作支援を行う開発アウトソーシング事業では、連結子会社である株式会社G&Dを通じてゲームビジネスのトータルアウトソーシングニーズに対応するため、海外子会社とのグループネットワークを活かしたサービスの提供に努めて参りました。

3Dコンテンツ制作事業では、平成24年5月に連結子会社として設立した株式会社デジタルハーツ・ビジュアルを軸とし、海外の映像関連業界を中心とした顧客企業に対する営業活動に注力して参りました。

Fuguai.com事業におきましては、デバッグ事業との関連性を最大限に活かしたサービス開発に努めるとともに、認知度の向上に注力し収益化に向けた活動にも注力し、平成24年9月には当社として初めて国の行政機関である消費者庁の案件を落札致しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のその他の事業の売上高は215,520千円、営業損失は86,392千円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産の残高は3,207,828千円となり、前連結会計年度末における流動資産2,451,501千円に対し、756,326千円の増加(前期比30.9%増)となりました。

これは、主として受取手形及び売掛金が475,976千円増加したこと並びに現金及び預金が220,146千円増加したことによるものであります。

固定資産の残高は1,267,918千円となり、前連結会計年度末における固定資産708,394千円に対し、559,523千円の増加(前期比79.0%増)となりました。

これは、主としてのれんが522,122千円増加したことによるものであります。

(負債)

流動負債の残高は1,867,651千円となり、前連結会計年度末における流動負債862,450千円に対し、1,005,201千円の増加(前期比116.6%増)となりました。

これは、主として未払法人税等が120,134千円減少した一方で、短期借入金が1,000,000千円増加したことによるものであります。

固定負債の残高は26,327千円となり、前連結会計年度末における固定負債30,953千円に対し、4,626千円の減少(前期比14.9%減)となりました。

(純資産)

純資産の残高は2,581,768千円となり、前連結会計年度末における純資産2,266,492千円に対し、315,276千円の増加(前期比13.9%増)となりました。

これは、主として期末配当及び中間配当の実施に伴い利益剰余金が92,784千円減少した一方で、四半期純利益の計上により利益剰余金が392,487千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の業績予想につきましては、概ね計画通りに推移しており、平成24年11月2日に公表致しました「平成25年3月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の業績予想数値から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

(特定子会社の異動)

平成24年5月21日付けで株式会社デジタルハーツ・ビジュアルを設立したため、第1四半期連結累計期間より連結の範囲に含めております。

また、平成24年11月30日付けでAetas株式会社の全株式を取得し子会社化したため、当第3四半期連結累計期間より連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,597,677	1,817,823
受取手形及び売掛金	763,994	1,239,971
たな卸資産	994	27,697
その他	89,687	126,006
貸倒引当金	△852	△3,671
流動資産合計	2,451,501	3,207,828
固定資産		
有形固定資産	207,978	265,299
無形固定資産		
のれん	—	522,122
その他	62,540	94,979
無形固定資産合計	62,540	617,101
投資その他の資産	437,875	385,516
固定資産合計	708,394	1,267,918
資産合計	3,159,896	4,475,746
負債の部		
流動負債		
短期借入金	—	1,000,000
未払費用	346,920	408,384
未払法人税等	275,780	155,646
賞与引当金	26,380	24,669
その他	213,367	278,951
流動負債合計	862,450	1,867,651
固定負債		
資産除去債務	3,060	3,860
その他	27,893	22,466
固定負債合計	30,953	26,327
負債合計	893,403	1,893,978
純資産の部		
株主資本		
資本金	272,949	272,981
資本剰余金	232,949	232,981
利益剰余金	1,741,048	2,040,752
株主資本合計	2,246,947	2,546,715
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,444	△1,287
為替換算調整勘定	△3,107	6,005
その他の包括利益累計額合計	△4,552	4,717
少数株主持分	24,097	30,335
純資産合計	2,266,492	2,581,768
負債純資産合計	3,159,896	4,475,746

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	4,171,302	4,931,423
売上原価	2,620,112	3,243,365
売上総利益	1,551,190	1,688,057
販売費及び一般管理費	794,150	984,477
営業利益	757,040	703,580
営業外収益		
受取利息	1,768	154
受取配当金	—	863
助成金収入	4,440	5,243
その他	4,087	3,751
営業外収益合計	10,296	10,012
営業外費用		
支払利息	157	1,633
投資事業組合運用損	1,457	1,413
為替差損	11,988	4,359
債権売却損	733	—
営業保証金精算損	20,287	—
その他	52	110
営業外費用合計	34,676	7,516
経常利益	732,660	706,076
特別利益		
保険解約返戻金	—	22,183
特別利益合計	—	22,183
税金等調整前四半期純利益	732,660	728,259
法人税、住民税及び事業税	350,588	323,776
法人税等調整額	△2,136	5,707
法人税等合計	348,451	329,483
少数株主損益調整前四半期純利益	384,208	398,775
少数株主利益	—	6,288
四半期純利益	384,208	392,487

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	384,208	398,775
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△194	156
為替換算調整勘定	△9,289	9,063
その他の包括利益合計	△9,484	9,220
四半期包括利益	374,724	407,996
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	375,121	401,757
少数株主に係る四半期包括利益	△397	6,238

(3) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	デバッグ 事業	メディア 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,161,132	—	4,161,132	10,170	4,171,302	—	4,171,302
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	4,161,132	—	4,161,132	10,170	4,171,302	—	4,171,302
セグメント利益又は 損失(△)	1,260,635	—	1,260,635	△74,323	1,186,311	△429,271	757,040

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、Fuguai.com事業及び3Dコンテンツ制作事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△429,271千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

① 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	デバッグ 事業	メディア 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,660,601	55,301	4,715,903	215,520	4,931,423	—	4,931,423
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,165	—	5,165	—	5,165	△5,165	—
計	4,665,767	55,301	4,721,068	215,520	4,936,588	△5,165	4,931,423
セグメント利益又は 損失(△)	1,277,256	18,387	1,295,644	△86,392	1,209,252	△505,672	703,580

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、Fuguai.com事業、ゲームソフトウェア開発のアウトソーシング事業及び3Dコンテンツ制作事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△505,672千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

② 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結累計期間より、Aetas株式会社の全株式を取得し、同社を連結子会社としたことに伴い、新たに「メディア事業」を報告セグメントに加えております。

この影響により、当第3四半期連結会計期間末において「メディア事業」のセグメント資産の金額は、前連結会計年度末に比べて、885,181千円増加しております。

③ 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、従来「デバッグ事業」のみを報告セグメントとしておりましたが、「② 報告セグメントごとの資産に関する情報」に記載のとおり、当第3四半期連結累計期間より、報告セグメントに「メディア事業」を加えるとともに、報告セグメントに含まれない事業セグメントを「その他」として区分しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

④ 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「メディア事業」において、Aetas株式会社の株式取得により、同社を連結子会社としたことに伴い、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において522,122千円であります。

4. (参考)四半期財務諸表(個別)

この四半期財務諸表(個別)は「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づき当社が任意で作成したものです。

(1) (参考)四半期貸借対照表(個別)

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,474,054	1,478,708
受取手形及び売掛金	763,776	1,009,732
たな卸資産	994	1,821
その他	91,964	149,942
貸倒引当金	△852	△961
流動資産合計	2,329,938	2,639,243
固定資産		
有形固定資産	183,667	222,991
無形固定資産	48,042	75,882
投資その他の資産		
関係会社株式	169,186	1,129,372
その他	432,114	369,675
投資損失引当金	—	△46,791
投資その他の資産合計	601,301	1,452,256
固定資産合計	833,010	1,751,130
資産合計	3,162,948	4,390,374
負債の部		
流動負債		
短期借入金	—	1,000,000
未払費用	342,799	386,940
未払法人税等	275,780	121,000
賞与引当金	26,380	13,369
その他	210,179	188,237
流動負債合計	855,140	1,709,547
固定負債		
資産除去債務	3,060	3,860
その他	6,072	3,736
固定負債合計	9,132	7,596
負債合計	864,273	1,717,144
純資産の部		
株主資本		
資本金	272,949	272,981
資本剰余金	232,949	232,981
利益剰余金	1,794,221	2,168,554
株主資本合計	2,300,120	2,674,517
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,444	△1,287
評価・換算差額等合計	△1,444	△1,287
純資産合計	2,298,675	2,673,229
負債純資産合計	3,162,948	4,390,374

(2) (参考)四半期損益計算書(個別)

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	4,169,977	4,641,775
売上原価	2,615,539	3,010,650
売上総利益	1,554,437	1,631,125
販売費及び一般管理費	779,023	858,831
営業利益	775,414	772,294
営業外収益		
受取利息	1,767	118
受取配当金	—	863
助成金収入	4,440	5,243
その他	5,487	7,651
営業外収益合計	11,695	13,876
営業外費用		
支払利息	157	551
投資事業組合運用損	1,457	1,413
為替差損	12,163	5
債権売却損	733	—
営業保証金精算損	20,287	—
その他	52	39
営業外費用合計	34,851	2,009
経常利益	752,258	784,161
特別利益		
事業譲渡益	—	7,556
保険解約返戻金	—	22,183
特別利益合計	—	29,739
特別損失		
投資損失引当金繰入額	—	46,791
特別損失合計	—	46,791
税引前四半期純利益	752,258	767,109
法人税、住民税及び事業税	350,588	307,839
法人税等調整額	△2,136	△7,848
法人税等合計	348,451	299,991
四半期純利益	403,806	467,117

5. 補足情報

(1) 事業等のリスク

当第3四半期連結累計期間において、Aetas株式会社の全株式を取得し、同社を連結子会社としたことに伴い、当社グループにおける事業リスクを検討した結果、「平成24年3月期決算短信」に記載した事業等のリスク(事業の内容についてのリスク要因)に以下の記載内容を追加しております。

⑬ 企業買収による事業拡大について

当社グループは、事業規模の拡大及び多様な収益源の確保を目的として、ユーザーデバッグサービスの提供事業を軸としつつ幅広いビジネス展開を積極的に行う考えであり、そのための有効な手段の一つとして企業買収を活用していく方針であります。企業買収においては、対象となる企業の財務内容、契約関係及び事業の状況等について事前にデューデリジェンスを実施し、可能な限りリスクの低減に努めております。

しかしながら、企業買収後に、事業環境に急激な変化が生じた場合やその他予期し得ない理由により当初の計画通りに事業が進展しない場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

⑭ 著作権に関するリスクについて

当社グループは、運営するメディアにおいて多くの記事、図版等のコンテンツを掲載しており、それらのコンテンツが第三者の権利を侵害しないよう厳格な管理を実施しております。

しかしながら、何らかの理由により、それらのコンテンツが第三者の権利を侵害した場合には、当社グループへの損害賠償責任の追及や社会的信用の失墜等により、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

事業の特性上、該当事項はありません。

② 受注実績

当社グループのデバッグ事業及びメディア事業は、受注から役務提供までの所要日数が短く、期中の受注高と販売実績とがほぼ対応するため、記載を省略しています。

③ 販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績は、次のとおりであります。

区分		当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	
		金額(千円)	前年同四半期比(%)
デバッグ 事業	コンシューマゲームリレーション	2,054,291	94.1
	デジタルソリューションリレーション	1,357,797	159.7
	アミューズメントリレーション	1,248,512	110.8
	小 計	4,660,601	112.0
メディア事業		55,301	—
その他		215,520	—
合 計		4,931,423	118.2

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 当第3四半期連結累計期間より、Aetas株式会社の全株式を取得し、同社を連結子会社としたことに伴い、「メディア事業」を新たに報告セグメントに加えております。
 4. 前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合については、当該割合が100分の10以上である相手先がないため記載を省略しております。